

噴火史研究にもとづく桜島火山の噴火予測 噴火規模と年代でつくる階段図は何を語るか？

日時

2015年 5 月 23 日(土) 14:00～15:30

会場

福岡大学 福岡市城南区七隈8-19-1

対象

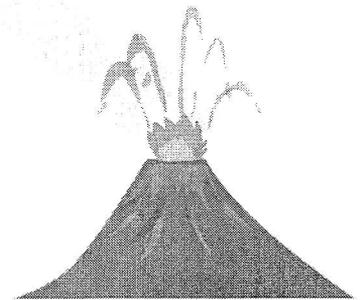
社会人・学生(中学生以上)

定員

50人

受講料

無料



■講師

奥野 充

福岡大学理学部教授

国際火山噴火史情報研究所長

■講座内容

この講座では、噴火史研究の地質調査、年代測定、噴出量の見積もり法などを解説し、それらのまとめとしてできる階段図の意味を述べます。そのうえで、現在も活動を続ける桜島火山を例に、噴火史研究から今後どのような噴火がおこると考えられるのかを説明します。

桜島火山は、1955年から南岳山頂火口で、さらに2006年からは昭和火口で断続的に火山灰を吹き上げる活動を続けています。また、桜島火山北隣の鹿児島湾奥部は、始良カルデラとよばれ、約3万年前に南九州のシラス台地を一瞬にして作り出した大規模火砕流噴火がおこりました。この講座では、これらをまとめて今後、どのような噴火をするのか、噴火史研究の現状を示しながら考えていきます。

お申込み・お問合せ

福岡大学エクステンションセンター

4月2日(木)より先着順で受け付けます。申込専用電話でお申し込みください。

申込専用 TEL:092-871-6728 受付時間9:00～17:00 ※土曜日は12:00まで※日祝日は休み

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1 TEL:092-871-6631(内線4622) FAX:092-871-6726

ご提供いただきました個人情報は、本学個人情報保護規程により適切かつ厳重に管理いたします。また、これらは講座の企画、管理、運営ならびに講座開講等本学からのご案内に利用することがあります。